

シンポジウム1

第1日目 10月15日(木) 9:00~11:00

第1会場 (ベイシア文化ホール (群馬県民会館) 1階 大ホール)

地域医療が赤十字に求める救急医療

座長 西山 謹吾 (高知赤十字病院 救命救急センター センター長)
井 清司 (熊本赤十字病院 救命救急センター 兼 集中治療部長)

- S-1 石巻赤十字病院が地域に求められる役割・目指す役割
石巻赤十字病院 救命救急センター 本橋 蔵
- S-2 諏訪赤十字病院新型救命救急センターの立ち上げと診療状況
諏訪赤十字病院 救急部 上條 幸弘 他
- S-3 当院における救急体制の変遷
福岡赤十字病院 救急科 友尻 茂樹 他
- S-4 救急外来初期診療を中心とする名古屋第二赤十字病院救急部の取り組み
名古屋第二赤十字病院 救急部 稲田 眞治 他
- S-5 全例応需をなし得ているER型救急施設の活動状況と問題点
日赤和歌山医療センター 救急集中治療部 千代 孝夫 他
- S-6 大都市東京における赤十字病院救命救急センターの運用
武蔵野赤十字病院 救命救急センター 須崎紳一郎 他
- S-7 救急専従医1名の救命救急センターの役割—地域完結型の救急医療をめざして—
長岡赤十字病院 救命救急センター 内藤万砂文
- S-8 地方救命救急センターの現状と課題 (大都市救命救急センターと比較して)
高山赤十字病院 白子 隆志 他

S-1

石巻赤十字病院が地域に求められる役割・目指す役割

石巻赤十字病院 救命救急センター

もとはし おさむ
○本橋 蔵

石巻赤十字病院は、392床、21診療科を有する石巻医療圏の中核病院で、平成21年7月1日に救命救急センター（新設10床、新設救急科）を開設し現在に至っている。石巻医療圏は石巻市、東松島市、女川町の3市町にまたがり約22万人の医療人口を抱えている。圏内の搬送率が95%を超え自己完結性が高い。当院は圏内の約50%の救急車を受け入れており、昨年度の救急車搬入台数は3887台であった。石巻医療圏には急性期医療を扱う100床以上の病院は4施設あるが24時間対応できるのは当院のみである。救命救急センター開設に先立ち平成21年4月に救急科を新設、救急専従医4人を確保し救急医療にあたっている。臨床研修医も全国から公募しており前期研修医16名、後期研修医8名が救急医療に参加している。当院は救急科を開設する以前より救急告示病院として機能しておりその点院内各科の協力状況は良好である。行政から賦与される役割であるが、救急医療に関連する施設認定として以下の六つが挙げられる。新型救命救急センター併設救急告示病院として2次から3次医療の一部まで担っており自己完結性も高い。宮城県地域災害医療センターとして災害時救急医療・広域搬送拠点（ヘリコプター離着陸所）・医療救護チームの派遣機能（DMATや救護班）などを有する。第2種感染症指定医療機関として、2類に分類される感染症（結核、SARS、鳥インフルエンザなど）の患者を入院させる役割を持つ。洋上救急業務の協力医療機関として、医師や看護師を現場へ派遣し応急処置を行いつつ病院への搬送も行っている。宮城県地域周産期母子医療センターとして周産期にかかわる高度な医療を提供している。地域医療支援病院としてかかりつけ医からの紹介患者への救急医療の提供を行い地域医療の質的向上を支えている。